

第108号  
2022年  
12月20日  
部内資料



# にし

日本共産党

越谷にし後援会  
発行 後援会事務局  
連絡先 花田 1-11-15  
電話 962-9595

## 議会報告

市議会議員 宮川雅之

高齢化に対応したまちづくりがより一層求められています

恩間の方から要望のあった「地域で行う側溝の清掃に、高齢で参加できない、どうしたらいいか」の相談を受け、市役所担当課への相談を紹介したところ、早速対応が図られ「助かった」とのこと。

越谷市は65歳以上の方が4人に1人「これまでのように生活や地域活動で思うように動けない」という悩みを抱える方も多い中、市もそれに対応した相談支援活動をすすめているところ です。

地域包括ケアネットワーク、といわれる、「地域で高齢者を支える仕組み」が つくられつつありますが、本来なら、介護保険制度で支えられるべきものが、だんだんと越谷市が高齢者を独自に支える仕組みに変えられつつあります。

住民から集められた介護保険料で支える高齢者介護を、「公費の負担を抑制する」政治によって、それが市と地域のボランティアのかたに押し付けられています。

どの人にも生きがいを持って暮らせるまちを実現するために、公的な支援が、まずベースにあることこそが必要です。 了

越谷市後援会長 ばばひろしからあいさつ

日頃の活動にお礼を申し上げます。さて突然ですが、この度は来春の統一地方選挙において越谷選挙区の**県議会議員候補**として立候補することとなりました。2015年の安保法制の成立により日本は集团的自衛権によって米国の軍事戦略に強く組み込まれることになりました。そして、今、安保関連3文書の改訂によって軍事費の大幅増加が画策されています。

一方、多くの国民は食料 水 光熱費 生活用品の値上げにさらされ続け、生活の苦しさは日々強まっています。また、物価高騰の中、10月から年金額は0.4%削減されました。国民を苦しめる物価高になんら有効な手立てを打たず、閣議決定のみで軍事費の大幅増額を進めようとする岸田政権、自民公明政権を許すことはできません。国の悪政から国民を守る防波堤としての地方自治体の役割はとても大きなものがあります。自民党が過半数を占める埼玉県において日本共産党の議席が増えることは、地方自治体という防波堤を強固にするとともに、国の悪政に対する痛打となります。微力ながら、全力で闘っていく決意です。



日本共産党越谷後援会委員長

ばばひろし(馬場浩)

## 苦勞の旅 (96歳) 第三十四回

奥山輝男

或る日、通りすがりの婦人に「この埴輪 あなたの作品ですか？ 九六歳おどろきです」わたし「いやあ コロナで体力が落ちふらつきふらつき つまずき で不安ですと応える。

するとこの女性が「私はリハビリに通って元気です。ご希望ならばリハビリ受療の手続きのお手伝いをいたしますよ」ときました。渡りに舟とお願いすると申込みも手続きもトントン拍子に進みリハビリテーションを利用することができるようになりました。リハビリテーションの利用者は皆 明るく元気で親切なので、楽しい出会いに感謝しています。本当に縁とは不思議なものですね。これからも縁を大切にします。

ア！我家のブロック君と同居のポスター君達が独り事！ 好きで雨風に晒されているのではない。美的でも芸術的でもない表現や政党支持の自由がある民主国家なんだぞと云つても子供から大人まで眼にするポスターは政党の暖簾 看板なのです。誇りと認識をもって工夫し大切にすべきだと私は思います。然し昔から全く変わらないのは何故か？ 多分 制度等がと云うでしょうが私は期待しています。過去は変えられないが未来は変えられると、無理な話ですかねー？ せめて春まで続く「値上げ増税ラッシュ」に反対のポスターを見たいものです。

世界の情勢もあるが政府や財界の勝手にさせてよいのか！ そうだ勝手にやったのが例の国葬で、即ち酷葬です。今さら国葬と云つても虚しさやはかなさだけですが二度と繰り返されないことです。

わたしは思います。「地に潜む震災」「地上をさまようコロナ」「空ではほ笑むミサイル」よ みんなさらばと祈っています。そして眼をそらすポスターより振り返って見るポスターを・・・

存在の証は行動で見せてください。 三二、十二、一〇

## 読後感想文

西の橋

書名「日本人が夢見た満州という幻影」

著者 船尾修 二三年七月初版

かつて中国残留孤児帰国が話題になったことがあります。満州国という国名は知つていてもどんな国かわかりません。

この本の骨子は現存する建築物を写真で表しています。重要な都市、旅順・奉天・新京・大連・ハルビンなどの概略史と現存する建築物の写真多数で説明しています。建築物は当時日本の建物よりはるかに巨大で威圧感があると同時にデザインがモダンで美しい。

満州国はわずか十三年半ほどしか存在していない傀儡<sup>かいらい</sup>国家であつた。満鉄(南満州鉄道)や満蒙開拓団の日本人の体験は処遇さまざままで高低差があつたようである。

満州を知ることは当時の日本を知ることである。

著者は読者と一緒に満州の街を歩きながら歴史を学びなおしてみたいと述べている。

満州というとただ広大な大地と日本には少ない鉱物資源の宝庫という断片的な知識しかない。

特にあまり知られていない物件をあげると 露天堀の撫順炭鉱、関東軍の要塞、俘虜収容所、七三一部隊の痕跡、日本の神社鳥居など・・・ 著者は街の再開発のため取り壊されるのを危惧して一枚でも多くカメラに納めるよう努めたそうです。

### 相談窓口 お気軽にどうぞ

お困りのことはございませんか？

宮川雅之 ケータイ 090 3908 6409  
共産党 地区委員会 048 988 7001